

令和7年3月25日

岡山・広島県内の日本版ライドシェア運行エリア拡大!

～「赤磐交通圏」、「江田島市」の営業区域で「日本版ライドシェア」を許可しました～

「日本版ライドシェア（自家用車活用事業）」は、タクシー事業者の管理の下で、タクシーを補完する目的で、地域の自家用車や一般ドライバーを活用して、タクシーが不足する曜日や時間帯において、有償で運送サービスを提供するものです。

中国地方では、これまでに「広島交通圏」を始め、計18の営業区域において日本版ライドシェアの許可を行ってきましたが、この度、「赤磐交通圏※（岡山県）」と「江田島市（広島県）」の2営業区域で新たに許可を行いました。岡山県では「玉野市」に続き2例目、広島県では5例目の許可となります。

このうち、「赤磐交通圏」では、現在タクシーが不足している午前中の移動需要に対応するため、運行時間帯を「毎日6時台～11時台」として許可したものであり、午前中に運行するのは、岡山県内では“初”となります。

国土交通省では、安全・安心を確保しつつ地域の移動の不足の解消につなげるため、日本版ライドシェアのバージョンアップを順次行ってきていますが、中国運輸局では、引き続き利用者の利便性の向上に取り組んでまいります。

記

1. 許可年月日：令和7年3月25日
2. 許可権者：中国運輸局岡山運輸支局長（赤磐交通圏に係るもの）
中国運輸局広島運輸支局長（江田島市に係るもの）
3. 許可を受けた営業区域、事業者名称、許可車両数、期間及び時間帯：

営業区域	事業者名称 ()は実施営業所名	車両数	期間及び時間帯
赤磐交通圏	株式会社エスアールティー(赤磐)	2台	月曜日～日曜日の 6時台～11時台
江田島市	有限会社矢の浦タクシー(本社)	2台	金曜日又は土曜日の 16時台～翌5時台

【参考】「赤磐交通圏」の法人タクシー事業者数 10事業者、車両数37台（令和7年3月1日現在）

「江田島市」の法人タクシー事業者数 7事業者、車両数38台（令和7年3月1日現在）

※「赤磐交通圏」とは、岡山県のうち赤磐市及び岡山市（平成19年1月22日編入の旧赤磐郡瀬戸町に限る。）の区域を指します。

【問合せ先】

<全般に関すること>

中国運輸局自動車交通部旅客第二課（082-228-3450）石井、小林、伊藤

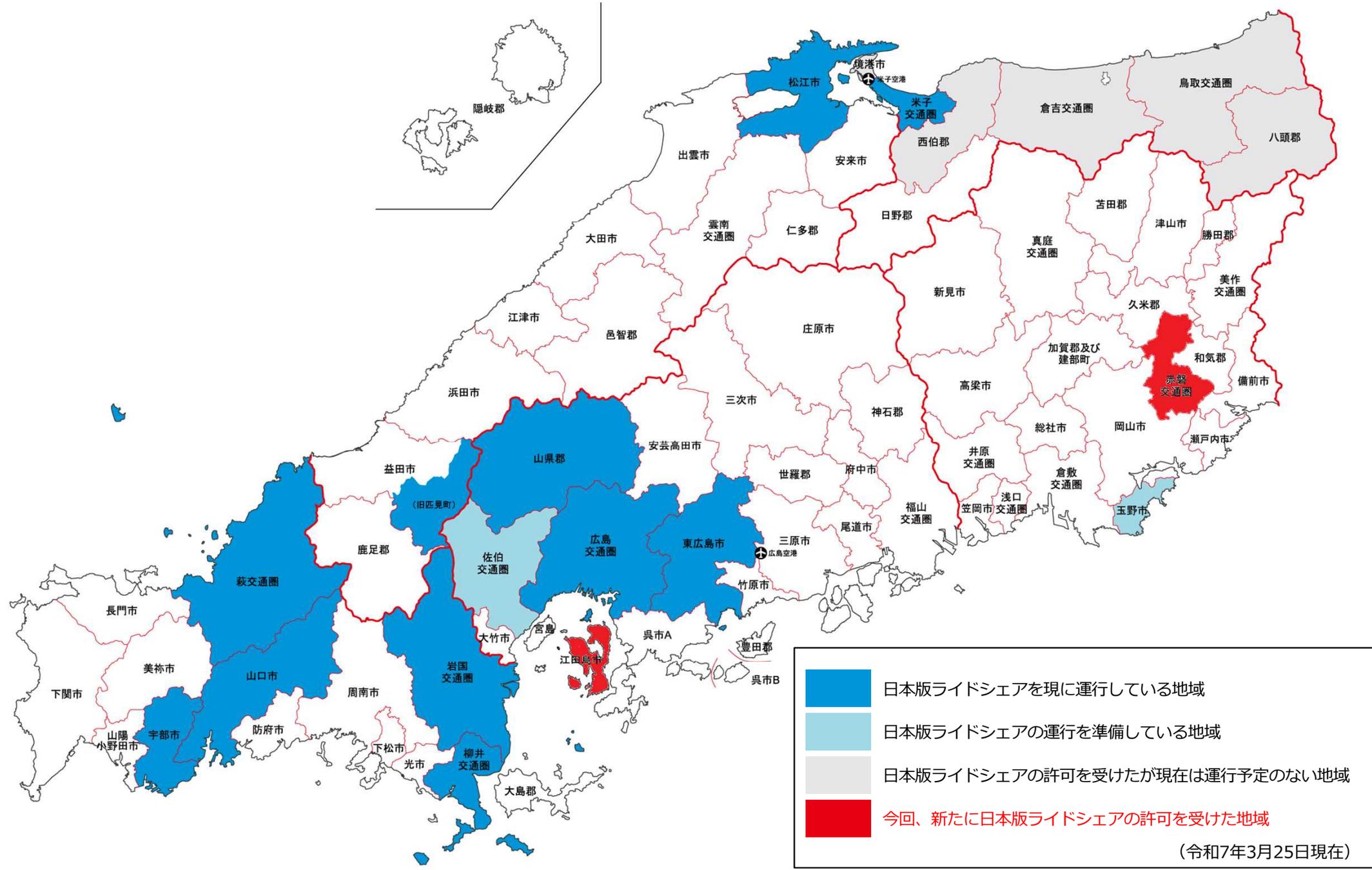
<赤磐交通圏に関すること>

中国運輸局岡山運輸支局輸送・監査担当（086-286-8122）宮地、松野

<江田島市に関すること>

中国運輸局広島運輸支局輸送・監査担当（082-233-9167）藤本、竹中

中国地方における日本版ライドシェアの導入状況



- 地域交通の「担い手」「移動の足」不足解消のため、令和6年3月、タクシー事業者の管理の下で、地域の自家用車・一般ドライバーを活用した運送サービスの提供を可能とする自家用車活用事業を創設
- タクシー配車アプリデータ等を活用して、営業区域ごとにタクシーが不足する時期、時間帯及び不足車両数を特定



	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
0時	98%	98%	98%	98%	96%	89%	95%
1時	98%	98%	98%	97%	87%	67%	96%
2時	98%	99%	98%	99%	93%	66%	97%
3時	98%	98%	98%	98%	97%	70%	97%
4時	97%	98%	98%	98%	98%	87%	96%
5時	97%	97%	97%	98%	96%	95%	92%
6時	97%	97%	97%	98%	94%	97%	93%
7時	88%	91%	94%	94%	91%	98%	96%
8時	78%	81%	84%	85%	79%	98%	97%
9時	85%	85%	90%	88%	85%	97%	95%
10時	95%	95%	96%	95%	92%	95%	93%
11時	97%	97%	97%	97%	93%	94%	89%
12時	97%	97%	97%	96%	95%	93%	88%
13時	97%	98%	97%	97%	97%	94%	91%
14時	98%	98%	98%	98%	97%	96%	94%
15時	98%	98%	98%	98%	97%	96%	95%
16時	98%	97%	98%	97%	96%	92%	95%
17時	95%	93%	94%	92%	87%	85%	92%
18時	94%	94%	93%	92%	85%	90%	95%
19時	97%	97%	97%	97%	95%	93%	95%
20時	98%	98%	98%	98%	97%	95%	95%
21時	98%	98%	98%	98%	97%	96%	96%
22時	98%	98%	98%	98%	98%	97%	97%
23時	98%	98%	98%	98%	97%	97%	98%

東京の例

【タイプ1】配車アプリのデータに基づき不足車両数を算定し、自家用車活用事業を行う地域(大都市部)

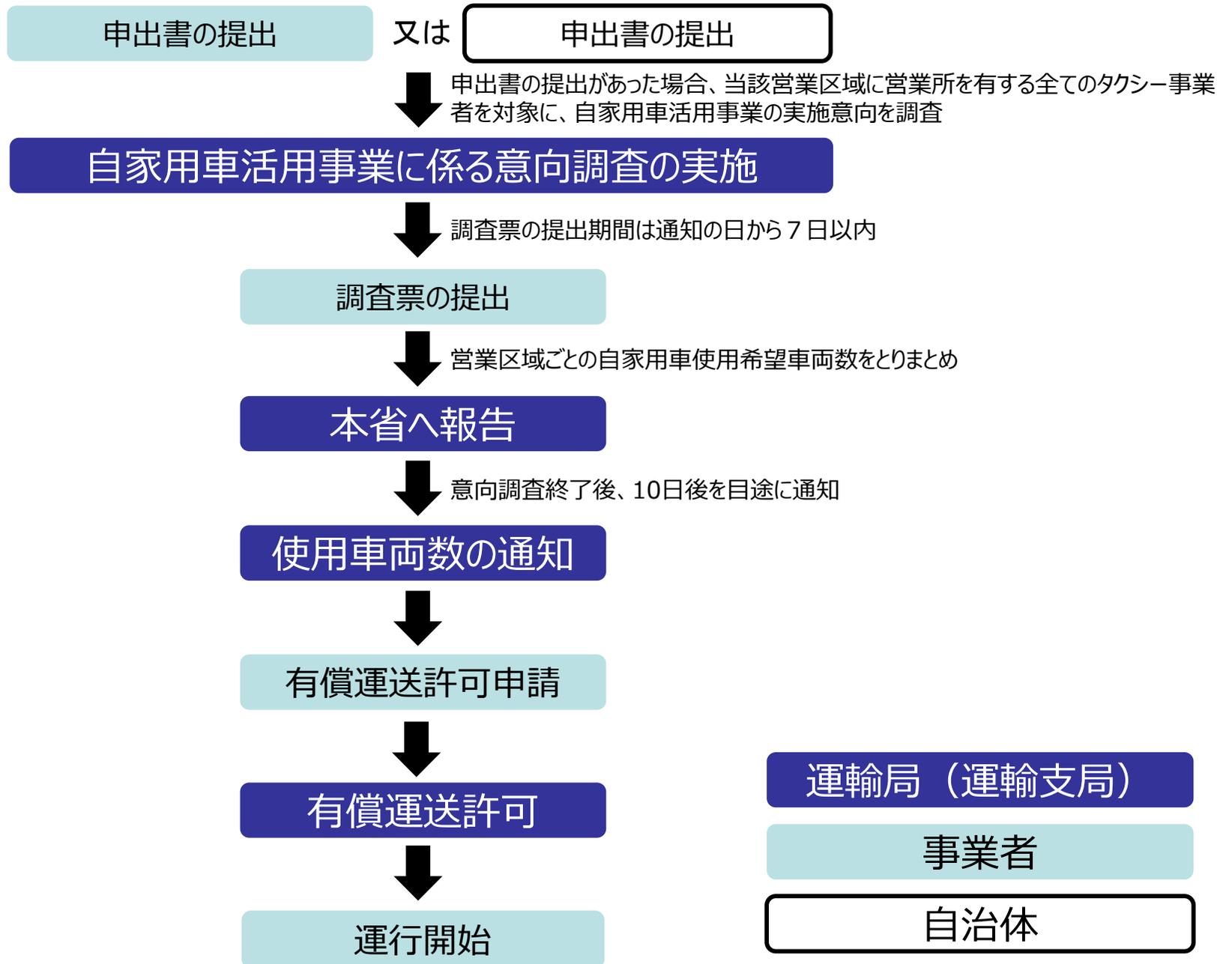
東京、横浜、名古屋、京都、札幌、仙台、さいたま、千葉、大阪、神戸、広島、福岡(12地域)

【タイプ2】その他の地域(大都市部以外)

簡便な方法※により不足車両数を算定し、タクシー事業者に実施意向がある場合は実施が可能

※金曜日・土曜日の16時台から翌5時台をタクシーが不足する曜日及び時間帯とし、当該地域のタクシー車両数の5%を不足車両数とみなす。

※ただし、自治体が特定の曜日、時間帯における不足車両数を運輸支局へ申し出た場合は、その内容を不足する曜日、時間帯及び不足車両数とみなす。



これまでの日本版ライドシェアのバージョンアップの実施内容

- 6月28日 雨天時における対応
- 8月5日 酷暑における対応
- 8月5日 イベント開催時における輸送力向上方策
- 9月10日 災害対応時の自家用車活用事業の活用
- 9月10日 配車アプリを使用しない自動車活用事業の導入
- 9月10日 貨客混載の導入
- 9月10日 協議運賃の導入
- 9月17日 大都市以外の地域における供給車両数・時間帯の拡充
- 10月11日 鉄道等の公共交通機関の遅延時における自家用車活用事業の活用
- 10月25日 イベント開催時や紅葉シーズン等における自家用車活用事業の活用
(「8月5日イベント開催時における輸送力向上方策」をバージョンアップしたもの※)
- 11月27日 事前確定運賃に時間制運賃が活用できることの明確化

※【バージョンアップの内容】

- 日本版ライドシェアを、次の(1)のみ活用可能であったが、(2)でも活用できるように変更
- (1)タクシー事業者がイベント主催者又は周辺公共団体からの要請を受けて実施する場合
 - (2)タクシー事業者が関係地方公共団体と調整・相談の上実施する場合